

学年
通信

夢追人

令和7年6月24日
第12号
小代中学校3年生
発行者:梅谷俊平

教育めぐる大人の役割

新聞を読んでいて、私も一人の親としてなるほど…と思った記事がありましたので、紹介させていただきます。ぜひ一読ください。

今回は、子どもたちの成長を促す上で大事なことだと分かっていながら、大人がなかなか実行できないことについて、自戒の念も込めて、その重要性を述べたいと思います。

子どもたちに対する大人の役割は当然たくさんあります。教育において最も大切だと感じるのは、大人の「**待つ力**」です。

大人は子どもたちの成長に対する理想を持っています。しかし現実的には、子どもたちは理想通りの形やスピードでは成長してくれません。そこで大人はつい、自分の理想に子どもたちを近づけようとして、その方向に引っ張ろうとします。もちろん、**経験の乏しい子どもたちにさまざまなことを教えたり、しつけたりすることは、大人の重要な役割**です。しかし往々にして、子どもたちの主体性や思いを考慮に入れずに、大人本位のやり方やペースで、半ば強引に対応してしまいがちです。

冷静に考えれば分かることですが、子どもたち自身に意欲が伴わなければ、真の成長にはつながりません。子どもたちが意義を理解し、自らの意識やエネルギーを傾注してくれない限り、形だけのものになりがちです。理解も意欲も不十分な状況で無理やり大人が引っ張ることは、実は極めて非効率なのです。

さらに残念なことに大人は、自分が正しいと思い込んでいますので、引っ張り方もエスカレートしがちです。そうなると、本来の目的である成長から、子どもたちをどんどん遠ざけてしまうのです。

大人の果たすべき役割は、**子どもたちが成長するために必要な価値観を伝え、環境を用意し、モチベーションにつながる提案をし続けること**です。あとはひたすら、子どもたちが自らの問題と捉えてチャレンジし、成功や失敗といった経験を重ねるのを「待つ」のです。

「**待つ力**」には勇気や忍耐が必要です。それでも、強制的にやらせて主体性を奪ったり、転ばぬ先のつえをつけて経験の場を奪ったりすることのマイナスを改めて自覚し、大人は待ち続けるべきではないでしょうか。

引用: 神戸新聞 受験のココロ 教育めぐる大人の役割
希学園理事長兼学園長 黒田耕平

ギリギリセーフをやめよう

オープンスクールの案内が次々と来ています。進路コーナーに掲示してありますが、見ていますか？また、教室の後ろには進路の日程が掲示してあります。確認していますか？

今日、第1回進路希望調査を配付しています。進路関係の書類は特にですが、締切日に提出した文書に不備があった（ペン書きの所が鉛筆書きだった、誤字があった等）というケースが毎年数件あります。「それくらいのことで」と思わないでください。提出日に間に合えばいいじゃないか、という意見が出るかもしれませんが、もしも何かあった場合、取り返しのつかないことになることは避けたいです。自分で見通しを立てて、計画して実行できる力をぜひ、つけてほしいと思います。

あしあと、テスト計画表、テストの記録、懇談の希望用紙、普段の宿題等、きちんと管理や提出が出来ている人が多いです。ですが全員ではないことが残念です。また、進路に関する話を尋ねた時に、「親に聞いていないので…」「わかりません…」と答えた人がちらほら…。

あなた自身の進路ですよ！！

もちろん、進路については自分だけで決めることではありませんが、他人に丸投げするものではありません。自分事として考えるようにしてください。そして、「わかりません」ではなくて、「今はこう考えています！」と自分で言えるようになってください。

